

人と関かわかつて

- (1) だれたれいに対たいしても真ま心しんをももつて
- (2) 相あ手いを思おいてやり親せ切きに
- (3) 友とも達だちとたがいに理り解かいし合あって
- (4) そんけいと感かん謝しゃの気き持もちをももつて

(1) だれに対しても真心をもって

礼儀で通い合う心

わたしたちは、いろいろな人といっしょに生活をしています。相手を大切に思う気持ちを形にして礼儀正しくふるまえば、たがいの心が通い合います。

あつわり

- ・「おはようございます。」
- ・「さようなら。」
- ・「行ってきます。」
- ・「こんにちは。」

行ってきます。

行ってらっしゃい。

●他に知っているあいさつを書きましょう。



「元気にがんばって
くるよ」という
気持ち



「元気にすごしてね」
という気持ち

言葉づかい

- ・電話のときの受け
答えの例

〇〇ですが、
お父さん
いらっしゃいますか。



自分の名前を明らか
にしてだれと話した
いかをはっきりと伝
える。
相手をうやまう言葉
を使う。

はい、おります。
しばらくお待ち
ください。

- 友達と話すときと
おとな
大人と話するときと
では、どのような
ことに気を付けて
言葉を使い分けれ
ばよいでしょうか。



相手の用件に答えて
返事をし、相手が気
持ちよく待てるよう
な言葉かける。

3年		
礼 ぎ	一週目	
	二週目	
	三週目	
	四週目	

4年		
礼 ぎ	一週目	
	二週目	
	三週目	
	四週目	

礼^{れい}ぎ名人^{めいじん}を目指^{めざ}そう

あいさつ、言葉づかい、ふるまいなど、礼^{れい}ぎは毎日の生活の中にあります。

●心がけてみようと思う礼^{れい}ぎを書いて、できたかどうかをたしかめてみましょう。

◎よくできた ○だいたいできた

ふるまい

- ・マナーに気を付けて食事をする。
- ・相手を見て話を最後まで聞く。
- ・周りの人に気配りをする。

荷物をお持ち
しましうか。

ありがとう。

●他^{ほか}にふるまいで気を付けることを書きましょう。



気配りをしてもら
ったことへの
感謝の気持ち

大変そうだから
助けたいという
気持ち

日本の文化の中にある礼儀

茶道や華道は、今に伝わる日本の文化です。これらの作法や型には、相手を大切に思う気持ちがこめられています。

茶道

お湯をわかしてお茶をたて、人にお茶をふるまいます。
お茶の作法には、一期一会の気持ちで相手をもてなして、そのときのおたがいの心の通い合いを大切にするといい気持ちがこめられています。



「一期一会」とは、「あなたとこうして出会っているこの時間は二度とない、たった一度きりのものだから、この一しゅんを大切に思い、今できる最高のおもてなしをしましょう」という意味があります。

華道

植物をうつわに美しく見えるように生けます。
生け方にはいろいろな型があり、工夫して生けられた花は、見る人の気持ちをゆたかにしてくれます。



おもてなし

二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックを東京にまねくためのスピーチで、日本の「おもてなし」という言葉が話題になりました。



「おもてなし」は、人のことを考え、人を大切にふるまうこと、礼儀の一つです。



たん生日をむかえた
友達に、お祝いの手
紙を書こう。



がんばってやりとげた
人に、はく手をしよう。

喜んでいいる人がいたら、うれしく思える心

● 思いやりの心が表せたときのことを書
きましよう。



思いやりの心があると、
自分も周りの人も
えがおでいっぱいになります。
たくさんの人に、
思いやりの心を
広げていきましよう。

(2) 相手を思いやり親切に

思いやりの心とは、どのような心でしょう



こまっていたら
手伝おう。



お年よりに
席をゆずろう。



さびしい思いを
している人を、
遊びにさそおう。



泣いている人に、
声をかけよう。

こまっている人がいたら、助けたいと思う心

悲しんでいる人がいたら、気づかおうとする心

人との関わり方の基本にあるのは「思いやり」

人を思いやる気持ちは、様々な文学作品の中にも表れています。

日本の文学作品から

俳句や短歌、詩、書などの有名な作品を残した良寛は、子どもや周りの人を思いやる温かい心を持ち、その気持ちを作品としても表しています。

この里に 手まりつきつつ子供らと
遊ぶ春日は 暮れずともよし

この里で子どもたちとこうして手まりをついて
いる幸せな春の日は、くれないでほしいものだ。

良寛は、子どもたちとかくれんぼやまりつきをしてよく遊んだそうです。ふところにはいつも手まりを入れていたという話もあります。



良寛
(一七五八〜一八三二)
江戸時代の僧
歌人、書家

外国の文学作品から

アイルランド生まれの作家オスカー・ワイルドが書いた「幸福の王子」という作品にも思いやりの気持ちが表れています。

(あらすじ)

ある町の広場に、金ばくでおおわれ、青いサファイアの目、赤いルビーの付いたけんをたずさえた「幸福の王子」のどうぞうが立っていました。そこに、南にわたる途中のつばめがやってきます。「つばめさん、悪いがわたしに力をかしてくれないか。うら通りの小さな屋根うら部屋でお母さんが泣いている。病気でねている男の子のそばで、薬も食べ物も買えずにいるんだよ。わたしのルビーをとどけてやってくれないか。」

「わたしは南の国へ帰らなければなりません。けれど一ばんだけお役に立ちましょう。」
つばめはルビーをぬき取ると、それを屋根うら部屋のお母さんの所へとどけました。

その町の全ての悲しみが見える王子は、つばめにたのんで、目のサファイアも体をおおっていた金ばくも全てこまっている人の所へ運んでもらいました。つばめも、王子の気持ちを感じて、王子の願いを聞きました。

冬がやってきて、つばめは寒さにこごえてとうとう動かなくなりました。そして王子も……。

この話の最後がどうなったのかを、図書室などの本で読んでみましょう。



学校が終わって、ぼくは家に向かう道を急いで歩いていた。お母さんのお手伝いをする約束をしていたからだ。家の近くまで来たとき、荷物を持ってよいしょよいしょと歩いている一人のおばあさんに出会った。大きな荷物ではないが、とても重そうだった。

ぼくは、それを見て、知らないおばあさんだけど、声をかけようかと思った。でも、まよった。お母さんとの約束も大切だったからだ。

でも、ぼくの目の前にいるおばあさんはとても苦しそうだ。どうしようか……。

すると、おばあさんが石につまずいて転びそうになった。ぼくは思わず、

「荷物、持ちます。」

と声をかけた。ところがおばあさんは、

「ありがとうございます。でも、家まですぐだからいいですよ。」

とにっこり答えて、歩いていった。ぼくは、せっかく声をかけたのに……と残念に思った。よく見ると、そのおばあさんはかた方の足が少し不自由で、歩くのが大変そうだった。

家に帰って、そのことをお母さんに話すと、

「いいことをしたわね。はやとのかしたことは、少しもまちがっていないわよ。おばあさんは、きっと心の中で喜んでいらっしやるわ。実は、あのおばあさん、最近引っこしてきた人でね、おすめさんから聞いた話なんだけど、病気で体が不自由になっていたので、歩く練習をして、あそこまで治ってきたそうよ。」

(そうだったのか。)と、ぼくは、おばあさんの本当の気持ちがかかったような気がした。

数日後、ぼくは、またあのおばあさんに出会った。とても暑い日で、立っているだけでもつらい日だった。ぼくは、家に用事が



あったけれど、じっとおばあさんのことを見ていた。

おばあさんは、不自由な足を一生けん命動かして坂を上っていた。今日は、なんだかこの前より足どりが重いような気がした。

(声をかければ、またことわられるだろうか。家にも急がないといけない。でも、このままでいいのだろうか。こまったな。)

ぼくは、改めておばあさんを見た。おばあさんは、不自由な足を動かして、一生けん命歩いていく。おばあさんのひたいには、あせが光っていた。

(ぼくは、おばあさんに何ができるだろう。)
しばらく考えてから、そっとおばあさんの後ろをついて歩いた。

家に向かう長い坂を上り切ると、おばあさんの顔がほっと明るくなった。おばあさんのことを心配してげん関で待っている

むすめさんのすがたを見つけたのだ。

「だいぶ歩けるようになったねえ。」

というむすめさんの言葉に、おばあさんはにっこりして、それはそれはうれしそうな顔をした。そのえがおを見て、ぼくの心はぱっと明るくなった。

(もう、大じょうぶ。)

ぼくはほっとむねをなでおろした。そして、おばあさんがむすめさんのところに着いたのを見とどけて、家に向かって歩きだした。

ぼくは、今、おばあさんと『心と心のおく手』をしたような気がした。そして、最初に声をかけたぼくと、心の中でおうえんしながらそっと見守ったぼくを思い出して、本当の親切とは何かが少ないだけ分かった気がした。

友達の良い所を見付けよう

みんなすてきな良い所があります。
友達の良い所をさがしてみましよう。

例
友達の名前
山下ゆき子さん

良い所
こまっている人を見かけたら、いつも声をかけてあげています。
やさしくて思いやりがあると思います。

友達の名前

良い所

友達の名前

良い所

友達の名前

良い所

友達の大切さを感じて

標語の例

手と手と手 みんなできずく 仲間の輪

がんばろう 一人じゃないよ ぼくがいる

「それはだめ！」友達だから わたしは言う

元気出せ 友達みんな おうえん団

見つけたよ キラキラ光る 友のよさ

●自分で作った標語を書いてみましよう。

Blank area for writing student-made slogans.

友情って何だろう

この問題の答え、
分からないよ。



友達だから
答えを教えて
あげた方が
いいのかな。

いつも
負けてばかりだ。



友達だから
たまには
負けて
あげた方が
いいのかな。

● 本当の友達って何だろう。友情って何だろう。
考えたことを書いてみましょう。

今日の当番、
したくないな。



友達だから
代わって
あげた方が
いいのかな。

歌のコラム

友達の歌

See You (シーユー)

作詞 風 琳

ひとりぼっちになって考えた
人間一人じゃ 何もできないって
展覧会 運動会 学芸会も
クラスのみんなで力を合わせた
困ったときには先生がいる
つらいときには友だちがいる
どんなに泣きたい時でも
いつも 笑って いろいろ
友だちがいっぱいできるのは
君の笑顔がステキだから
大きくなって 大人になって
またどこかで会おう！ See You！

すてきな友達

作詞 梶賀 千鶴子

人はみんな だれでも
一人では 生きていけないから
いつも すてきな友達と この手をつなぐのさ
悲しいときも 仲間がいれば つらくはない
苦しいときも 仲間がいれば つらくはない



「今度こそがんばらなくては。」

「負けるものか。でも、やっぱり無理かな。」

運動会が近づき、今日の体育は学級対この「台風の目」という競技の練習です。この競技は、三人一組が横にならんで竹のぼうを持ち、前方に立てられた二つの旗をできるだけ早く回ってくる競争です。二組の教室では、登校してきた人たちが、その話に夢中でした。

とも子が教室に入ると、

「ひろし君も、ともちゃんもがんばってね。」

という声が聞こえました。ひろしは、

「だって、ぼくたちのグループには、光夫君がいるんだものな。ともちゃん。」

と、とも子の方をふり向いて不満そうに言いました。とも子も、「そうねえ。」と、相づちを打ちました。

光夫は、何をするにもおそいのですが、運動は特別苦手なのです。この前の練習のときは、光夫と組んでいたとも子たちのグループがおくれたので、二組が負けてしまいました。また、水泳大会のリレーでも光夫がぬかれて負けたことがありました。そのため、負けることが多い二組の人たちは、(今日こそ勝ちたい。)と強く思っていました。

みんなは、いつの間にか教室の後ろの方に集まって、どうしたら勝てるか相談を始めました。とも子もひろしも、その仲間に入りました。

そのとき、ランドセルを背負った光夫が教室に入ってきました。

「おはよう。」

みんなは、光夫とあいさつをしながら、おやつと思いました。光夫の指には包帯がまいてあったからです。

だけれど、「光夫君、どうしたの。」と聞くと、光夫は、

「自転車のそうじをしていて、指をはさんでしまったんだ。」

と言いながら、背中のランドセルをおろして、つくえの上に置きました。

ひろしは、何を思ったのか、光夫にかけより、

「光夫君、今日の体育はどうするんだ。休むのかい。」

と聞きました。光夫は、

「ぼく、休まないよ。指だから体育はできるよ。ほら。」

と、包帯をしている指を顔の辺りまで上げて、ぴくぴく動かして見せました。

「そうかい。でも、休んだ方がいいんじゃないか。ともちゃん、

どう思う。」

とも子は、ひろしの言葉にはっとしました。(そのくらいのけがだったらできるはずだ。光夫さんを休ませるなんて、そんなことはいけない。でも、光夫さんが入れればやっぱり……。)

「そうね。でも……。」

とも子は、返事にこまってしまいました。

とも子ははっきり答えないうまま、自分の席にもどりました。



そのとき、ふと、この前の日曜日のことを思い出しました。

その日、家に帰ったとも子に、遠くに転校した同級生のよし子から手紙がとどいていました。その手紙には次のようなことが書かれていました。

ともちゃん、わたしは今、とってもつらいの。それは、わたしのしゃべる言葉が、こっちの人たちと全然ちがうために、みんなに笑われたり、仲間外れにされたりすることがあるの。わたしは、早くみんなと仲良くなりたいから、こっちの言葉になれるように努力しているのよ。でも、すぐには無理なの。言い方が少しぐらいちがっても、思っていることやしていることは同じなのに。でも、がんばってみます。ともちゃんに会いたい。会って今までの言葉で自由に話したい。

(仲の良かったよし子さんが、ただ言葉が少しちがうという理由だけで、仲間外れになっている。そんなことがあってはいけないのに……) そう思っているうちに、とも子ははっとしました。

とも子は、自分の席からすっと立って、ひろしたちに近付きました。

「ひろしさんたち、光夫さんを外して勝とうとするなんて、まちがっていると思うの。同じ二組の仲間じゃないの。」

と、きびしく、はっきりと言いました。ひろしは、小さい声で、「だって。」

とつぶやきましたが、とも子のまじめな顔を見てだまってしまいました。

「光夫さん、がんばろうね。」

光夫は、初め、きよとんとしていましたが、すぐに、うれしそうに、

「うん。」

とうなずきました。

体育の時間になり、いよいよ「台風の目」が始まりました。

ひろしが、

「光夫君は、真ん中に入るんだったね。」

と言うと、とも子が、

「そうよ。光夫さん、ひろしさん、がんばろうね。」

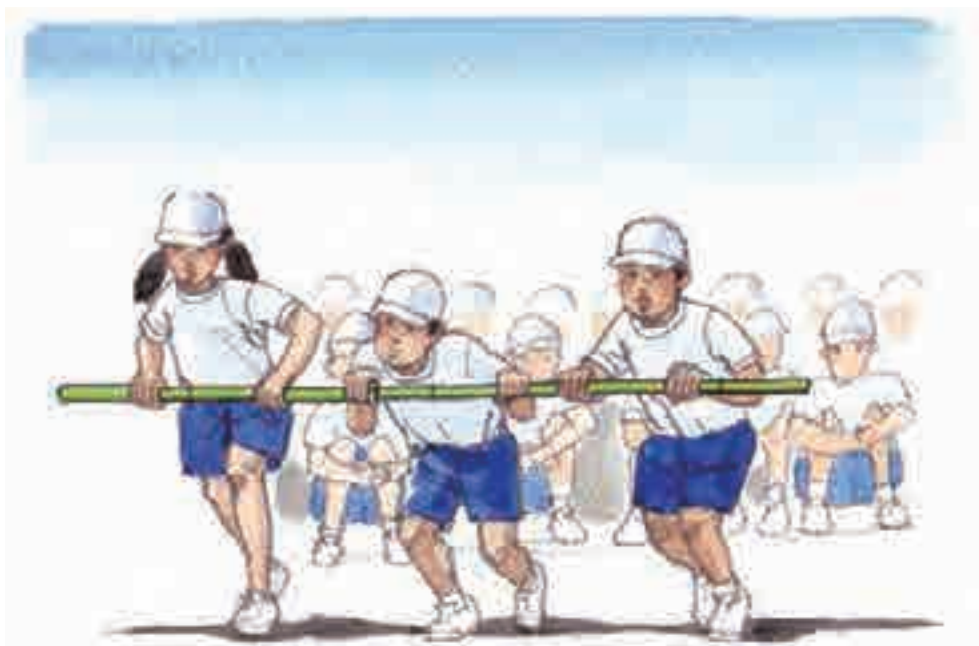
とはげました。

「うん。がんばる。」

と、光夫が元気に答えたとき、とも子たちにぼうがわたりました。

「わあっ。がんばれ、がんばれ。」

一だんと大きくなったおうえんの声が、運動場に広がりました。



ささげ合い 助け合い

「合い」の力で 心と心をつなげよう

みんなの力を合わせれば、一人ではできないことだってやりとげられることがある。学級や学校の仲間と、家族のみんななど、地いきの人たちと、「合い」の力でつながろう。

ロンドンオリンピック、男子四〇〇メートルメドレーリレーチームは、「合い」の力を発きして、銀メダルをかく得しました。

四〇〇メートルメドレーリレーで銀メダル以上を手にしたのは、男女を通じて、日本競泳史上初めてのことでした。

「二十七人で一つのリレーをしていた。四年前は銅だったので、銀をとりたいと思っていた。達成できて本当にうれしい。」

メドレーリレーチームの一人である入江陵介選手は、チームの四人だけでなく、日本代表として参加した競泳選手二十七人全

員の力がつながり合って、銀メダルをとれたと語りました。



家庭で

学校で

地いきで

●あなたは、どのような人にさせられているのでしょうか。毎日の生活をふり返ってみましょう。



(4) そんけいと感謝の気持ちをもって
生活をささえてくれている人たち

たくさんの人たちの力でわたしたちの毎日の生活はささえられています。

今のくらしをつくったお年よりたち

わかいころから、米作りをしています。

日照りや台風と向き合いながら、一生懸命に働いてきました。



日本人にとってお米は大切な食べ物だからね。



便利になったとみんなが喜んでくれてうれしかったですよ。

海の中にトンネルを通す工事をしました。失敗と苦勞の連続でしたが、本州から北海道まで車や電車で行けるようになりました。



病気になったり、あぶない目にあったり大変でしたが、たくさんの方が外国のことを知るきっかけになりました。

まだ日本人が行ったことのない外国のジャングルの様子を初めてさつえいして、テレビ番組を作り、しょうかいしました。

4年	3年

● あなたの周りにお年よりに、これまでどのような仕事をしたかを聞いてみましょう。その話を聞いて、思ったことを書きましょう。

だれかの生活をささえられる人に

朝がくると

まど・みちお

朝がくると とび起きて
 ぼくが作ったのでもない
 水道で 顔をあらうと
 ぼくが作ったのでもない
 洋服ようふくを きて
 ぼくが作ったのでもない
 ごはんを おしゃむしゃたべる
 それから ぼくが作ったのでもない
 本やノートを
 ぼくが作ったのでもない

ランドセルに つめて
 せなかに しょって
 さて ぼくが作ったのでもない
 靴くつを はくと
 たったか たったか でかけていく
 ぼくが作ったのでもない
 道路どうろを
 ぼくが作ったのでもない
 学校へと
 ああ なんのために

いまに おとなになったなら
 ぼくだって ぼくだって
 なにかを 作ることが
 できるように なるために



● あなたの生活をささえてくれている人に感謝かんしゃの気持ちきもちを書いてみましょう。

Two vertical rectangular boxes with rounded ends, separated by a dashed vertical line. Each box has a small upward-pointing arrow at the bottom center, indicating where to write.